

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	撮影				
担当教員	鈴木 隆裕		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 撮影現場での事前準備が正確になおかつ迅速に出来るようになる。 2. 撮影機材の安全な取り扱い、メンテナンスが出来るようになる。 3. 撮影機材の特性をいかした撮影が出来るようになる。				
学習目標 (到達目標)	テレビの中継、ロケ現場に出ても、自発的に動ける人材を育てる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	撮影基礎Ⅰ		撮影機材の基礎準備・撤収方法Ⅰ		
2	撮影基礎Ⅱ		撮影機材の基礎準備・撤収方法Ⅱ		
3	撮影基礎Ⅲ		撮影ケーブルの種類、取り扱い方法Ⅰ		
4	撮影基礎Ⅳ		撮影ケーブルの種類、取り扱い方法Ⅱ		
5	撮影基礎Ⅴ		撮影機材の種類・取り扱い方法Ⅰ		
6	撮影基礎Ⅵ		撮影機材の種類・取り扱い方法Ⅱ		
7	撮影基礎Ⅶ		撮影機材のメンテナンス方法Ⅰ		
8	撮影基礎Ⅷ		撮影機材のメンテナンス方法Ⅱ		
9	撮影実習Ⅰ		状況に応じた撮影機材の選定方法		
10	撮影実習Ⅱ		状況に応じた撮影機材の選定方法および撮影機材の設置方法		
11	撮影実習Ⅲ		画角の考え方、撮影方法Ⅰ		
12	撮影実習Ⅳ		画角の考え方、撮影方法Ⅱ		
13	撮影実習Ⅴ		画角の考え方、撮影方法Ⅲ		
14	短編映像制作実習Ⅰ		学生の企画を元にした短編映像制作		
15	短編映像制作実習Ⅱ		学生の企画を元にした短編映像制作		
16	短編映像制作実習Ⅲ		学生の企画を元にした短編映像制作		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
短編映像制作35%、中編映像制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			短編映像制作で学んだ知識、技術を出し切り全員で最後まで作り上げる。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		新潟にて映像制作に30年以上携わっている。			

科目名		編集						
担当教員		榎本 昭紀		実務授業の有無		○		
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年		1		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数		－		単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. Macintoshの操作方法を知る 2. Final Cut Proの操作方法を学ぶ 3. Final Cut Proで映像制作を行う						
学習目標 (到達目標)		ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1	Macintosh操作基礎				Macintoshの操作方法、アカウントを作成してみる			
2	ノンリニア編集基礎Ⅰ				Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）			
3	ノンリニア編集基礎Ⅱ				Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）			
4	ノンリニア編集基礎Ⅲ				Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）			
5	編集基礎Ⅰ				カット、シーンの考え方を学ぶ			
6	編集基礎Ⅱ				カット、シーンの繋ぎ方を学ぶ			
7	編集基礎Ⅲ				Final Cut Proを使用した音の整音方法を学ぶ			
8	編集基礎Ⅳ				モーションを使用したタイトルロゴを作成してみる			
9	編集基礎Ⅴ				モーションを使用したタイトルロゴを作成してみる			
10	編集実践Ⅰ				短編映像制作（撮影）			
11	編集実践Ⅱ				短編映像制作（撮影）			
12	編集実践Ⅲ				短編映像制作（編集）			
13	編集実践Ⅳ				短編映像制作（編集）			
14	編集実践Ⅴ				短編映像制作（編集）			
15	編集実践Ⅵ				短編映像制作（オールラッシュ）			
16	編集実践Ⅶ				仕上げ：編集データの書出し、カット・リスト作成、コンフォーム、グレーディング			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
実技試験35%、映像制作35%、出席率30%					積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、短編映像作品を完成させ提出すること。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴		農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット						

科目名		編集					
担当教員		榎本 昭紀		実務授業の有無		○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース		対象学年		2	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択		必修		単位数		一	
必修・選択							

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		照明				
担当教員		小峯 睦男		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 照明機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な照明設計の考え方を学ぶ 3. 様々なシチュエーションの照明を作る				
学習目標 (到達目標)		監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		図解・実践 新版 映像ライティング				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	照明基礎Ⅰ			照明機材の種類、名前を学習する		
2	照明基礎Ⅱ			照明機材の種類、名前を学習する		
3	照明基礎Ⅲ			電圧の計算方法を学ぶ		
4	照明基礎Ⅳ			基本的な照明設計の考え方を学ぶ		
5	照明基礎実践Ⅰ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングして みる		
6	照明基礎実践Ⅱ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングして みる		
7	照明基礎実践Ⅲ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングして みる		
8	映像照明基礎実践Ⅰ			朝の照明を作成してみる		
9	映像照明基礎実践Ⅱ			射し込みを表現してみる		
10	照明基礎Ⅴ			様々な場所の光を数値化してみる		
11	映像照明基礎実践Ⅲ			夕焼けを作成してみる		
12	映像照明基礎実践Ⅳ			夜を表現してみる		
13	照明実践Ⅰ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
14	照明実践Ⅱ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
15	照明実践Ⅲ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
16	照明実践Ⅳ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
17	照明実践Ⅴ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
実務経験教員の経歴		「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		照明				
担当教員		小峯 睦男		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 照明機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な照明設計の考え方を学ぶ 3. 様々なシチュエーションの照明を作る				
学習目標 (到達目標)		監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		図解・実践 新版 映像ライティング				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	照明基礎Ⅰ			照明機材の種類、名前を学習する		
2	照明基礎Ⅱ			照明機材の種類、名前を学習する		
3	照明基礎Ⅲ			電圧の計算方法を学ぶ		
4	照明基礎Ⅳ			基本的な照明設計の考え方を学ぶ		
5	照明基礎実践Ⅰ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみ る		
6	照明基礎実践Ⅱ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみ る		
7	照明基礎実践Ⅲ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみ る		
8	映像照明基礎実践Ⅰ			朝の照明を作成してみる		
9	映像照明基礎実践Ⅱ			射し込みを表現してみる		
10	照明基礎Ⅴ			様々な場所の光を数値化してみる		
11	映像照明基礎実践Ⅲ			夕焼けを作成してみる		
12	映像照明基礎実践Ⅳ			夜を表現してみる		
13	照明実践Ⅰ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
14	照明実践Ⅱ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
15	照明実践Ⅲ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
16	照明実践Ⅳ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
17	照明実践Ⅴ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
実務経験教員の経歴		「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師				

科目名		ドローン撮影演習			
担当教員		榎本 昭紀		実務授業の有無	○
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期 前期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数 48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 無人航空機に関しての基礎的な操作方法を学ぶ 2. 無人航空機に関しての正しい知識、飛行モラルを学ぶ			
学習目標 (到達目標)		正しい法律を知り、安全にドローン操縦が出来る。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		DJI CAMP技能認定専用テキスト			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	ドローン操作基礎知識Ⅰ			DJI CAMP技能認定専用テキスト	
2	ドローン操作基礎知識Ⅱ			DJI CAMP技能認定専用テキスト	
3	ドローン操作基礎知識Ⅲ			DJI CAMP技能認定専用テキスト	
4	ドローン操作実技Ⅰ			安全確認、GPSを使用したフライト	
5	ドローン操作実技Ⅱ			直進、バック操作Ⅰ	
6	ドローン操作実技Ⅲ			横移動、旋回Ⅰ	
7	ドローン操作実技Ⅳ			サークル操作Ⅰ	
8	ドローン操作実技Ⅴ			高所での操作Ⅰ	
9	ドローン操作実技Ⅵ			直進、バック操作Ⅱ	
10	ドローン操作実技Ⅶ			横移動、旋回Ⅱ	
11	ドローン操作実技Ⅷ			サークル操作Ⅲ	
12	ドローン操作実技Ⅸ			高所での操作Ⅳ	
13	ドローン操作実技Ⅹ			GPSをOFFにした操作Ⅰ	
14	ドローン操作実技Ⅺ			GPSをOFFにした操作Ⅱ	
15	ドローン操作実技Ⅻ			総合練習	
16	見極め			プロパイロットによる総合試験	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
実技試験80%、出席率20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				事故の無いよう、安全な操作を心がける	
実務経験教員の経歴		農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット			

科目名		ドローン撮影演習				
担当教員		榎本 昭紀		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 無人航空機に関しての基礎的な操作方法を学ぶ 2. 無人航空機に関しての正しい知識、飛行モラルを学ぶ 3. ドローンも操作した様々な撮影トレーニング				
学習目標 (到達目標)		正しい法律を知り、安全にドローン操縦が出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		DJI CAMP技能認定専用テキスト				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	ドローン基礎操作			撮影スタジオ・室内におけるドローン撮影		
2	ドローン基礎操作			撮影スタジオ・室内におけるドローン撮影		
3	ドローン基礎操作			撮影スタジオ・室内におけるドローン撮影		
4	ドローン基礎操作			撮影スタジオ・室内におけるドローン撮影		
5	ドローン操作実技			動く人物をとらえた撮影トレーニング		
6	ドローン操作実技			動く人物をとらえた撮影トレーニング		
7	ドローン操作実技			動く人物をとらえた撮影トレーニング		
8	ドローン操作実技			動く人物をとらえた撮影トレーニング		
9	ドローン操作実技Ⅰ			屋外におけるドローン撮影トレーニング		
10	ドローン操作実技Ⅰ			屋外におけるドローン撮影トレーニング		
11	ドローン操作実技Ⅰ			屋外におけるドローン撮影トレーニング		
12	ドローン操作実技Ⅰ			屋外におけるドローン撮影トレーニング		
13	ドローン操作実技Ⅱ			自身が選んだ被写体をドローンを使って撮影		
14	ドローン操作実技Ⅱ			自身が選んだ被写体をドローンを使って撮影		
15	ドローン授業最終			撮影した映像素材を編集		
16	ドローン授業最終			撮影した映像素材を編集		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験80%、出席率20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				事故の無いよう、安全な操作を心がける		
実務経験教員の経歴		農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		画像デザイン									
担当教員		仲野 龍一郎		実務授業の有無		○					
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. Photoshopの基本操作をマスターする。 2. Photoshopを活用した実務に必要な知識、技術を身に付ける。 3. Photoshopを活用したデザインワークの考え方を身に付ける									
学習目標 (到達目標)		映像制作に必要なPhotoshopの知識、技術を身に付ける。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		Photoshop®クイックマスターCC Windows&Mac									
回数		授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考					
1		Photoshopの起動方法と基礎操作Ⅰ				Photoshop®クイックマスターCC 10～32					
2		Photoshopの起動方法と基礎操作Ⅱ				Photoshop®クイックマスターCC 10～32					
3		マスクとアルファチャンネル				Photoshop®クイックマスターCC 41					
4		画像解像度				Photoshop®クイックマスターCC 46					
5		画像の変形				Photoshop®クイックマスターCC 55					
6		遠近法・ワープ				Photoshop®クイックマスターCC 55					
7		カラーモード				Photoshop®クイックマスターCC 60					
8		色調補正				Photoshop®クイックマスターCC 65					
9		画像レタッチⅠ				Photoshop®クイックマスターCC 87					
10		画像レタッチⅡ				Photoshop®クイックマスターCC 88					
11		画像レタッチⅢ				Photoshop®クイックマスターCC 89					
12		ペイント				Photoshop®クイックマスターCC 95					
13		レイヤー操作				Photoshop®クイックマスターCC 98					
14		シェイプ				Photoshop®クイックマスターCC 120					
15		文字の入力と加工				Photoshop®クイックマスターCC 128～133					
16		フィルター効果				Photoshop®クイックマスターCC 136					
評価方法・成績評価基準						履修上の注意					
各チャプター課題提出70%、出席率30%						16回すべての授業に出席し、尚且かならず課題を提出する事。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。											
実務経験教員の経歴		ご当地アイドルのイベント企画の実施、配信スタッフ									

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		シナリオプランニング				
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. シナリオの基本的な書き方を学ぶ 2. 物語の幅を広げる 3. 人間に対しての興味、深く掘り下げる習慣をつける。				
学習目標 (到達目標)		シナリオの型を学習し、ストーリーやプロットを学生自身で考えられるようにする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	シナリオ基礎Ⅰ			シナリオとはどういうものかを、映画の脚本を読んで研究する		
2	シナリオ基礎Ⅱ			映画を観ながら、脚本の書式を学ぶ。		
3	シナリオ研究Ⅰ			テーマに沿った短いシナリオを書いてみる。		
4	シナリオ研究Ⅱ			書いた作品を見直し、どういう物語なのか、何を表現したいのかを発表する。		
5	シナリオ研究Ⅲ			プロットを基に構成を考えてみる		
6	シナリオ実習Ⅰ			物語の構成、時代背景、登場人物を考える		
7	シナリオ実習Ⅱ			シナリオを制作してみる		
8	シナリオ実習Ⅲ			シナリオを制作してみる		
9	シナリオ実習Ⅳ			シナリオを制作してみる		
10	シナリオ実習Ⅴ			シナリオを制作してみる		
11	シナリオ発表			各自、シナリオ内容を発表し、学生同士でブラッシュアップを行ってみる。		
12	シナリオ演習Ⅰ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
13	シナリオ演習Ⅱ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
14	シナリオ演習Ⅲ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
15	シナリオ演習Ⅳ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
16	シナリオ演習Ⅴ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
シナリオ提出70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				ただシナリオを書くだけでなく、キチンと取材、資料集めを行う。最終的に制作したシナリオで修了・卒業制作を行わせる。全ての実習項目に出席し、かつ全ての課題を提出すること		
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		シナリオプランニング				
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. シナリオの基本的な書き方を学ぶ 2. 物語の幅を広げる 3. 人間に対しての興味、深く掘り下げる習慣をつける。				
学習目標 (到達目標)		中編・長編制作オリジナルシナリオを完成させる。原稿用紙200枚程度（おおよそ100分）の長さのオリジナルシナリオを完成させる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	シナリオ基礎Ⅰ			基本的なシナリオの書き方を学ぶ		
2	シナリオ基礎Ⅱ			基本的なシナリオの書き方を学ぶ		
3	映画シナリオ研究Ⅰ			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる		
4	映画シナリオ研究Ⅱ			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる		
5	映画シナリオ研究Ⅲ			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる		
6	シナリオ実習Ⅰ			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。		
7	シナリオ実習Ⅱ			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。		
8	シナリオ実習Ⅲ			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。		
9	シナリオ実習Ⅳ			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。		
10	シナリオ実習Ⅴ			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。		
11	シナリオ発表			各自、シナリオ内容を発表し、学生同士でブラッシュアップを行ってみる。		
12	シナリオ演習Ⅰ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
13	シナリオ演習Ⅱ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
14	シナリオ演習Ⅲ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
15	シナリオ演習Ⅳ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
16	シナリオ演習Ⅴ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
シナリオ提出70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				ただシナリオを書くだけでなく、キチンと取材、資料集めを行う。最終的に制作したシナリオで修了・卒業制作を行わせる。全ての実習項目に出席し、かつ全ての課題を提出すること		
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー				

科目名		コミュニケーション検定				
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	×	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙譲語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。				
学習目標 （到達目標）		社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」（問題集含む）				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションとは？			P2 コミュニケーションの必要性を考える		
2	聞く力			P6～P9 目的に即して聞く		
3	聞く力			P10～P14 傾聴・質問する		
4	話す力			P15～P17 目的を意識する		
5	話す力			P18～P22 話を組み立てる		
6	話す力			P23～P29 言葉を選び抜く		
7	話す力			P30～P35 表現・伝達する		
8	実践基礎 1			P36～P39 来客応対		
9	実践基礎 2			P40～P43 電話応対		
10	実践基礎 3			P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶		
11	実践基礎 4			P49～P54 情報共有の重要性		
12	実践基礎 5			P55～P59 チーム・コミュニケーション		
13	実践応用 1			P60～P65 接客・営業		
14	実践応用 2			P66～P71 クレーム対応		
15	実践応用 3			P72～P77 会議・取材・ヒヤリング		
16	実践応用 4			P78～P83 面接		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要と感じたコミュニケーションの話しも交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。		
実務経験教員の経歴		コミュニケーション検定指導歴15年以上				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	Word/Excel検定				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. パソコン操作の基本を学ぶ。 2. 編集機能、罫線機能、図形機能を中心にWordの基本操作を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。				
学習目標 (到達目標)	Word文書処理技能認定試験 3 級合格を目標とする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ウィネット Word2010クイックマスター(基本編) サーティファイ Word文書処理技能認定試験 3 級問題集(2010対応)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Wordの基本		Wordの起動・画面構成、ヘルプの使い方既存の文書を開く、画面の操作・表示モード、Wordの終了 P2~22		
2	文字の入力と編集の基本操作		新規文書の作成、日本語入力システム、文字の入力と変換、単語の登録、文書の保存、文字の選択、文字列の編集とコピー・移動 P24~52		
3	文書の編集		ページ・文字の書式設定、文字幅と文字間隔の設定、文字列の配置、字下げと行間の設定、禁則処理、罫線と網かけ P54~84		
4	文書の印刷		改ページの挿入、ヘッダーとフッターの設定、印刷イメージの確認、印刷の実行 P86~98		
5	文書の作成		入力フォーマット、段落番号の書式設定、箇条書きの設定、タブ、インデント、クリックアンドタイプ、ビジネス文書の作成例 P102~132		
6	表を使った文書の作成		表の作成、表の選択方法、表の編集、表の装飾、文字列から表を作成する P137~165		
7	図形や画像を使った文書の作成		図形の作成、図形の編集、画像の挿入、横書きテキストボックスの挿入、ワードアートの挿入 P171~208		
8	総合学習問題		総合学習問題 P210~215		
9	試験対策		練習問題 1～2 問題集P2~16		
10	試験対策		練習問題 3～4 問題集P17~29		
11	試験対策		練習問題 5～6 問題集P30~44		
12	試験対策		練習問題 7～8 問題集P45~59		
13	試験対策		模擬問題 1 問題集P76~83		
14	試験対策		模擬問題 2 問題集P84~91		
15	試験対策		模擬問題 3 問題集P92~99		
16	試験対策		模擬問題 4 問題集P100~106		
17	試験対策		模擬問題 5 問題集P107~113		
18	試験対策		模擬問題 6 問題集P114~121		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴		Word文書処理技能認定試験指導経験15年以上			

科目名		Word/Excel検定					
担当教員		安川 嘉文		実務授業の有無		×	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期	
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. これまで学んだパソコン操作の復習をしながら授業を進めていく。 2. ワークシートの作成、グラフ、データベース機能を中心に基礎的なExcel活用技術を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。					
学習目標 (到達目標)		Excel表計算処理技能認定試験 3 級合格を目標とする。					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		ウィネット Excel2010クイックマスター(基本編) サーティファイ Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集(2010対応)					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	Excelの基本			Excelの起動・画面構成、ヘルプの使い方、既存ブックを開く、画面の操作、セルの選択、Excelの終了 P2~22			
2	データの編集			新規ブックの作成、データの入力、数式の入力、データの移動とコピー、ブックの保存 P24~56			
3	表の編集			罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除 P60~82			
4	ブックの印刷			表示モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の設定 P84~100			
5	グラフと図形の作成			グラフの作成、図形の作成 P104~132			
6	ブックの利用と管理			ワークシートの管理、ウィンドウの操作 P136~147			
7	関数			統計関数、数学/三角関数、論理関数、日付関数 P152~182			
8	データベース機能			リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入 P184~202			
9	総合学習問題			総合学習問題 P204~207			
10	試験対策			練習問題 1～2 問題集P2~11			
11	試験対策			練習問題 3～4 問題集P12~21			
12	試験対策			練習問題 5～6 問題集P22~32			
13	試験対策			練習問題 7～8 問題集P33~41			
14	試験対策			模擬問題 1 問題集P54~58			
15	試験対策			模擬問題 2 問題集P59~62			
16	試験対策			模擬問題 3 問題集P63~67			
17	試験対策			模擬問題 4 問題集P68~72			
18	試験対策			模擬問題 5 問題集P73~77			
評価方法・成績評価基準				履修上の注意			
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。			
実務経験教員の経歴		Excel表計算処理技能認定試験指導経験7年以上					

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	卒業進級制作				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	260時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 各学年集大成の学習発表の場である 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	企画書立案・協議Ⅰ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
3・4	企画書立案・協議Ⅱ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
5・6	企画書立案・協議Ⅲ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
7・8	企画書立案・協議Ⅳ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
9・10	シナリオ制作・修正Ⅰ		シナリオ制作・チェック・修正		
11・12	シナリオ制作・修正Ⅱ		シナリオ制作・チェック・修正		
13・14	シナリオ制作・修正Ⅲ		シナリオ制作・チェック・修正		
15・16	シナリオ制作・修正Ⅳ		シナリオ制作・チェック・修正		
17・18	シナリオ制作・修正Ⅴ		シナリオ制作・チェック・修正		
19・20	学内プレゼン・班編成		シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け		
21・22	制作準備Ⅰ		撮影・スケジュール・許可取り		
23・24	制作準備Ⅱ		撮影・スケジュール・許可取り		
25・26	制作準備Ⅲ		撮影・スケジュール・許可取り		
27・28	制作実践Ⅰ		撮影・編集・MA		
29・30	制作実践Ⅱ		撮影・編集・MA		
31・32	制作実践Ⅲ		撮影・編集・MA		
33・34	制作実践Ⅳ		撮影・編集・MA		
35・36	編集チェック・修正		撮影・編集・MAのチェックおよび、修正		
37・38	最終仕上げ		撮影・編集・MA 最終的な仕上げ		
39・40	作品上映会		講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		卒業進級制作							
担当教員		広川 一義		実務授業の有無		○			
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年		2	開講時期		後期	
必修・選択		必修		単位数		一	単位時間数		260時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 各学年集大成の学習発表の場である 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施							
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。							
回数		授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1・2		企画書立案・協議Ⅰ				学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）			
3・4		企画書立案・協議Ⅱ				学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）			
5・6		企画書立案・協議Ⅲ				学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）			
7・8		企画書立案・協議Ⅳ				学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）			
9・10		シナリオ制作・修正Ⅰ				シナリオ制作・チェック・修正			
11・12		シナリオ制作・修正Ⅱ				シナリオ制作・チェック・修正			
13・14		シナリオ制作・修正Ⅲ				シナリオ制作・チェック・修正			
15・16		シナリオ制作・修正Ⅳ				シナリオ制作・チェック・修正			
17・18		シナリオ制作・修正Ⅴ				シナリオ制作・チェック・修正			
19・20		学内プレゼン・班編成				シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け			
21・22		制作準備Ⅰ				撮影・スケジュール・許可取り			
23・24		制作準備Ⅱ				撮影・スケジュール・許可取り			
25・26		制作準備Ⅲ				撮影・スケジュール・許可取り			
27・28		制作実践Ⅰ				撮影・編集・MA			
29・30		制作実践Ⅱ				撮影・編集・MA			
31・32		制作実践Ⅲ				撮影・編集・MA			
33・34		制作実践Ⅳ				撮影・編集・MA			
35・36		編集チェック・修正				撮影・編集・MAのチェックおよび、修正			
37・38		最終仕上げ				撮影・編集・MA 最終的な仕上げ			
39・40		作品上映会				講師および、外部ゲストを招いての講評会			
		評価方法・成績評価基準				履修上の注意			
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%						・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる							

科目名		放送音声				
担当教員		五十嵐 裕明		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)		音の性質を理解し、扱えるようになる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	音響基礎実習Ⅰ			映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ		
2	音響基礎実習Ⅱ			音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ		
3	音響基礎実習Ⅲ			録音機材の準備方法、撤収方法		
4	音響基礎実習Ⅳ			ブームの使用方法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ		
5	音響基礎実習Ⅴ			スタジオ録音実習		
6	音響基礎実習Ⅵ			アフレコ録音実習		
7	音響基礎実習Ⅶ			アフレコ録音実習		
8	音響基礎実習Ⅷ			効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
9	音響基礎実習Ⅸ			効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
10	音響基礎実習Ⅹ			整音実習（アフレコ素材の整音）		
11	音響基礎実習Ⅺ			整音実習（アフレコ素材の整音）		
12	音響基礎実習Ⅻ			整音実習（アフレコ素材の整音）		
13	音響仕上げ実習Ⅰ			ミックスダウンを行ってみる。		
14	音響仕上げ実習Ⅱ			ミックスダウンを行ってみる。		
15	音響効果研究Ⅰ			映像作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
16	音響効果研究Ⅱ			映像鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた舞台制作に活かすこと。		
実務経験教員の経歴		FM新潟にて、音響を担当。数々のラジオ番組に関わっている				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	テレビ番組制作				
担当教員	渡邊 一久		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 発想したものを、企画書にまとめる 3. 企画書にまとめたものを映像にしてみる				
学習目標 (到達目標)	多くの人に見てもらえる映像を企画し、形に出来る。CMの企画から制作、納品方法まで出来るようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画Ⅰ		班編成→企画		
2	企画Ⅱ		企画提出→企画内容修正		
3	企画Ⅲ		各班による企画内容プレゼンテーション		
4	企画Ⅳ		プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う		
5	企画Ⅴ		プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う		
6	絵コンテ制作実習Ⅰ		企画内容にそった絵コンテ制作Ⅱ		
7	絵コンテ制作実習Ⅱ		企画内容にそった絵コンテ制作Ⅲ		
8	制作実習Ⅰ		企画内容から、撮影場所、キャスト、予算等を決める		
9	制作実習Ⅱ		撮影スケジュールを決める		
10	制作実習Ⅲ		撮影スケジュールを決める		
11	撮影実習Ⅰ		撮影		
12	撮影実習Ⅱ		撮影		
13	編集実習Ⅰ		編集		
14	編集実習Ⅱ		編集		
15	編集実習Ⅲ		仕上げ		
16	講評		講評		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
企画内容35%、実技試験35%、出席率30%			個人制作ではなく、グループワークとして実習に臨む。人の好き嫌いでは無く、仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		新潟・東京にてテレビ番組制作に30年以上携わっている。			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	テレビ番組制作				
担当教員	渡邊 一久		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. テレビ業界の常識を知る。 2. 発想力を鍛える 3. テレビ番組の企画から、制作までの一連の流れを知る。				
学習目標 (到達目標)	①テレビ制作を学ぶうえでの心構えと、映像を学ぶうえで必要な基礎知識、スキルを身につける。 ②グループワークを通して、積極的なコミュニケーションを取れる人材を育成する				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	テレビ業界研究Ⅰ		テレビ業界での必要な心構え、専門用語等の基礎知識を学ぶ		
2	テレビ業界研究Ⅱ		実際のテレビ制作の現場を見学する		
3	テレビ番組研究		テレビ番組の種類、現在のトレンドを研究する		
4	企画		いままでに無いテレビ番組を考え、企画書にまとめる		
5	企画Ⅱ		企画にまとめた内容をプレゼンテーションする。		
6	企画Ⅲ		プレゼンテーションした内容で学内コンペを行う。		
7	企画Ⅳ		コンペの内容をブラッシュアップする		
8	番組台本制作Ⅰ		企画内容にそった台本の制作を行う		
9	番組台本制作Ⅱ		企画内容にそった台本の制作を行う		
10	番組台本制作Ⅲ		企画内容にそった台本の制作を行う		
11	制作実習Ⅰ		台本の内容から、撮影場所、キャスト、予算等を決める		
12	制作実習Ⅱ		撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う		
13	制作実習Ⅲ		撮影スケジュールを決める		
14	撮影実習Ⅰ		台本にそった撮影を行う		
15	撮影実習Ⅱ		台本にそった撮影を行う		
16	編集実習Ⅰ		撮影した素材を編集し、仕上げを行う		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
企画内容60%、実技試験20%、出席率20%			いかに柔軟な発想が出来るか、諦めずに実習に取り組む事。グループワーク一丸となりより面白い作品が出来るよう切磋琢磨する事。全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		新潟・東京にてテレビ番組制作に30年以上携わっている。			

科目名	メイク				
担当教員	阿部 久美子		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. メイク道具の扱い方、種類、名前を覚える 2. 演出に応じたビューティーメイクが出来るようになる。 3. 演出に応じた特殊メイク、舞台メイクが出来るようになる。				
学習目標 (到達目標)	学生自身でメイクが出来、それを活かして作品制作が出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	特殊メイク概論Ⅰ		特殊メイクデザイン		
2	特殊メイク基礎Ⅰ		特殊メイク概論、傷制作実習		
3	特殊メイク基礎Ⅱ		傷パーツ制作、型取り		
4	特殊メイク基礎Ⅲ		陰影の考え方、血管等の特殊メイク制作		
5	フェイスペイント実習Ⅰ		フェイスペインティングⅠ		
6	フェイスペイント実習Ⅱ		フェイスペインティングⅡ		
7	フェイスペイント実習Ⅲ		フェイスペインティングⅢ		
8	フェイスペイント実習Ⅳ		シリコンを使用したフェイスペインティングⅠ		
9	フェイスペイント実習Ⅴ		シリコンを使用したフェイスペインティングⅡ		
10	フェイスペイント実習Ⅵ		シリコンを使用したフェイスペインティングⅢ		
11	ビューティーメイク実習Ⅰ		撮影用ビューティーメイクⅠ		
12	ビューティーメイク実習Ⅱ		撮影用ビューティーメイクⅡ		
13	ビューティーメイク実習Ⅲ		撮影用ビューティーメイクⅢ		
14	特殊メイク実習Ⅰ		ゾンビメイク実習Ⅰ		
15	特殊メイク実習Ⅱ		ゾンビメイク実習Ⅱ		
16	講評		オリジナルメイク発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験35%、短編映像制作35%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのメイクを完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		Hollywoodで特殊メイクを学び、ミュージックビデオや映画の特殊メイクを担当			

科目名		配信				
担当教員		仲野 龍一郎		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 配信機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な配信システムの考え方を学ぶ 3. イベント等の配信を行ってみる				
学習目標 (到達目標)		学生自身で配信のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	配信基礎Ⅰ			配信機材の種類、名前を学習する		
2	配信基礎Ⅱ			配信機材の仕組み、使用方法を学習する		
3	配信基礎Ⅲ			配信設備の組み立てを行う		
4	配信基礎Ⅳ			WEB配信に必要な基礎的知識を学ぶ		
5	配信基礎実践Ⅰ			基本的な配信設計に基づいて、配信設備をセッティングし てみる		
6	配信基礎実践Ⅰ			配信イベントを企画するⅠ		
7	配信基礎実践Ⅰ			配信イベントを企画するⅡ		
8	配信基礎実践Ⅰ			企画したイベントの配信を行う		
9	配信基礎Ⅱ			機材を複数用いた配信機材の仕組み、使用方法を学習する		
10	配信基礎Ⅱ			機材を複数用いた配信機材の組み立てを行う		
11	配信基礎Ⅱ			複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅠ		
12	配信基礎Ⅱ			複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅡ		
13	配信基礎実践Ⅱ			配信設計に基づいて、配信設備をセッティングしてみる		
14	配信基礎実践Ⅱ			配信イベントを企画するⅢ		
15	配信基礎実践Ⅱ			配信イベントを企画するⅣ		
16	配信基礎実践Ⅱ			企画したイベントの配信を行う		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				16回すべての授業に出席し、イベントの企画配信を行う事		
実務経験教員の経歴		ご当地アイドルのイベント企画の実施、配信スタッフ				

科目名		配信				
担当教員		仲野 龍一郎		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 配信機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な配信システムの考え方を学ぶ 3. イベント等の配信を行ってみる				
学習目標 (到達目標)		学生自身で配信のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	配信基礎Ⅰ			配信機材の種類、名前を学習する		
2	配信基礎Ⅱ			配信機材の仕組み、使用方法を学習する		
3	配信基礎Ⅲ			配信設備の組み立てを行う		
4	配信基礎Ⅳ			WEB配信に必要な基礎的知識を学ぶ		
5	配信基礎実践Ⅰ			基本的な配信設計に基づいて、配信設備をセッティングし てみる		
6	配信基礎実践Ⅰ			配信イベントを企画するⅠ		
7	配信基礎実践Ⅰ			配信イベントを企画するⅡ		
8	配信基礎実践Ⅰ			企画したイベントの配信を行う		
9	配信基礎Ⅱ			機材を複数用いた配信機材の仕組み、使用方法を学習する		
10	配信基礎Ⅱ			機材を複数用いた配信機材の組み立てを行う		
11	配信基礎Ⅱ			複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅠ		
12	配信基礎Ⅱ			複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅡ		
13	配信基礎実践Ⅱ			配信設計に基づいて、配信設備をセッティングしてみる		
14	配信基礎実践Ⅱ			配信イベントを企画するⅢ		
15	配信基礎実践Ⅱ			配信イベントを企画するⅣ		
16	配信基礎実践Ⅱ			企画したイベントの配信を行う		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				16回すべての授業に出席し、イベントの企画配信を行う事		
実務経験教員の経歴		ご当地アイドルのイベント企画の実施、配信スタッフ				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		ビジネス著作権									
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無		×					
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。									
学習目標 (到達目標)		1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		ビジネス著作権検定公式テキスト（ウイネット） ビジネス著作権検定初級問題集（サーティファイ）									
回数		授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考					
1		著作権とは何か				イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的					
2		著作権で保護されるもの				著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19					
3		著作権は誰が持つ				著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29					
4		著作権の内容 1				著作権の内容・著作人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科書P31～P41					
5		著作権の内容 2				財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信権・貸与権、譲渡権、二次的著作権 教科書P43～P59					
6		著作権は誰が持ついつまで保護される				著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69					
7		他人の著作物は勝手に使えない				著作権の譲渡・利用許諾、契約 教科書P73～P77					
8		勝手に使える場合がある				権利制限規定・私的使用・不随的著作物、教育・図書・非営利無償の上演、演奏・引用転載 教科書P83～P101					
9		著作物を伝達する者を保護する制度				著作隣接権（実演家）（レコード製作者）（放送事業者・有線放送事業者）・隣接権保護期間 教科書P117～P129					
10		勝手に使うとどうなるか				著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145					
11		著作権に関する関連制度				知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155					
12		産業財産権とは				特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布					
13		ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは				問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説					
14		著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外				問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説					
15		著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺				問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説					
16		模擬試験（過去問題より重要部分を出題）				答え合わせおよび解説					
		評価方法・成績評価基準				履修上の注意					
		検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10%				出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。					
		成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴		ビジネス著作権指導歴15年以上 MBAホルダー									

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	CM制作				
担当教員	浅野 司久		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 発想したものを、企画書にまとめる 3. 企画書にまとめたものを映像にしてみる				
学習目標 (到達目標)	多くの人に見てもらえる映像を企画し、形に出来る。CMの企画から制作、納品方法まで出来るようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発想トレーニング		1つのキーワードからどれだけ連想出来るかをトレーニングする		
2	映像研究		CMの種類、トレンドを研究する		
3	企画		1つのテーマを決め、内容にそった企画内容を考えプレゼンテーションを行う		
4	企画Ⅱ		プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う		
5	企画Ⅲ		プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う		
6	企画Ⅳ		プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う		
7	絵コンテ制作実習Ⅰ		企画内容にそった絵コンテ制作（絵コンテの書き方基礎）		
8	絵コンテ制作実習Ⅱ		企画内容にそった絵コンテ制作Ⅱ		
9	絵コンテ制作実習Ⅲ		企画内容にそった絵コンテ制作Ⅲ		
10	制作実習Ⅰ		企画内容から、撮影場所、キャスト、予算等を決める		
11	制作実習Ⅱ		撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う		
12	制作実習Ⅲ		撮影スケジュールを決める		
13	撮影実習Ⅰ		企画にそった撮影を行う		
14	撮影実習Ⅱ		企画にそった撮影を行う		
15	編集実習Ⅰ		撮影した素材を編集し、仕上げを行う		
16	編集実習Ⅱ		撮影した素材を編集し、仕上げを行う		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
企画内容35%、実技試験35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			個人制作ではなく、グループワークとして実習に臨む。人の好き嫌いでは無く、仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴	東京・新潟などのテレビCMを多数制作。ディレクターとして35年以上の経歴を持つ				

科目名	CM制作				
担当教員	浅野 司久		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 発想したものを、企画書にまとめる 3. 企画書にまとめたものを映像にしてみる 4. CM作成がメインとなる（様々なCMの違いを作成しながら学ぶ）				
学習目標 (到達目標)	多くの人に見てもらえる映像を企画し、形に出来る。CMの企画から制作、納品方法まで出来るようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	作品制作① 商品		対象商品のCM制作について企画書制作		
2	作品制作① 商品		画コンテ・台本作成		
3	作品制作① 商品		撮影・編集・MA		
4	作品制作① 商品		試写・講評		
5	作品制作② 企業		対象企業のCM制作について企画書制作		
6	作品制作② 企業		画コンテ・台本作成		
7	作品制作② 企業		撮影・編集・MA		
8	作品制作② 企業		試写・講評		
9	作品制作③ イメージCM		イメージCM制作について企画書制作		
10	作品制作③ イメージCM		画コンテ・台本作成		
11	作品制作③ イメージCM		撮影・編集・MA		
12	作品制作③ イメージCM		試写・講評		
13	作品制作④ 情報CM		情報CM制作について企画書制作		
14	作品制作④ 情報CM		画コンテ・台本作成		
15	作品制作④ 情報CM		撮影・編集・MA		
16	作品制作④ 情報CM		試写・講評		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
作品完成度80%、授業態度20%			個人制作ではなく、グループワークとして実習に臨む。人の好き嫌いではなく、仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	東京・新潟などのテレビCMを多数制作。ディレクターとして35年以上の経歴を持つ				

科目名	オンラインゼミ				
担当教員	朝倉隆司・広川一義・安川嘉文・仲野龍一郎		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 4人の講師が週替わりで実施 2. それぞれの先生が今、必要性を感じてることをZOOMオンラインを使って授業を行う 3. 最終的にレポート提出				
学習目標 (到達目標)	社会人・人間力育成				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	各自、プリント配布など				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	就職・オーディション実務（朝倉）		履歴書・エントリーシートの書き方		
2	就職・オーディション実務（朝倉）		面接の極意		
3	これからの日本（朝倉）		少子化・G5時代の到来・ビジネスセンスの重要性など		
4	感性を磨く（朝倉）		感性とは何か？感動できる人間になること		
5	人の目を気にしない方法（広川）		オンラインによる講義		
6	やりたい事の見つけ方（広川）		オンラインによる講義		
7	ネガティブな思考を改善するには（広川）		オンラインによる講義		
8	心を軽くする考え方（広川）		オンラインによる講義		
9	現代社会研究(仲野)		5Gから学ぶ、移動通信技術の歩みとこれから		
10	現代社会研究(仲野)		SDGsとは		
11	好きなことで生きていく(仲野)		自分を好きになり、夢を叶える		
12	僕らZ世代の将来(仲野)		僕らは何を学び、何を考え生きるのか		
13	社会話とサードプレイス（安川）		世間話と社会話の違いについて、サードプレイスから世界を拡げる。		
14	セルフプロモーション（安川）		芸能を進路先にするにあたってセルフプロモーションとは。		
15	芸能業界デビュー対策（安川）		デビューの傾向と対策。5つのキーワード		
16	オーディション対策（安川）		審査員にみられる演技力のポイント		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート提出50%、授業態度50%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			社会力・人間力などを育成することを目的とします。最終的にはレポートで自身が学んだことを、気づけたこと、これから必要なことなどをまとめて提出する。		
実務経験教員の経歴		各講師、映像・音楽・演劇業界にて実績あり。当校専任講師			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	専攻実習				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画・演出Ⅰ		班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
2	企画・演出Ⅱ		撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
3	企画・演出Ⅲ		撮影スケジュール案を提出		
4	企画・演出Ⅳ		予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
5	企画・演出Ⅴ		撮影準備開始		
6	企画・演出Ⅵ		撮影完了		
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ		企画内容選定（舞台制作）		
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ		企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ		制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ		美術・衣装・小道具打ち合わせ		
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ		撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ		企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ		照明、美術、音響打ち合わせ		
14	映像制作		映像制作		
15	映像制作		映像制作		
16	映像制作		映像制作		
17	映像制作		映像制作		
18	映像制作		映像制作		
19	映像制作		映像制作		
20	映像制作		映像制作		
21	映像制作		映像制作		
22	映像制作		映像制作		
23	映像制作		映像制作		
24	映像制作		映像制作		
25	映像制作		映像制作		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	専攻実習				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画・演出Ⅰ		班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
2	企画・演出Ⅱ		撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
3	企画・演出Ⅲ		撮影スケジュール案を提出		
4	企画・演出Ⅳ		予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
5	企画・演出Ⅴ		撮影準備開始		
6	企画・演出Ⅵ		撮影完了		
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ		企画内容選定（舞台制作）		
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ		企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ		制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ		美術・衣装・小道具打ち合わせ		
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ		撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ		企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ		照明、美術、音響打ち合わせ		
14	映像制作		映像制作		
15	映像制作		映像制作		
16	映像制作		映像制作		
17	映像制作		映像制作		
18	映像制作		映像制作		
19	映像制作		映像制作		
20	映像制作		映像制作		
21	映像制作		映像制作		
22	映像制作		映像制作		
23	映像制作		映像制作		
24	映像制作		映像制作		
25	映像制作		映像制作		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	専攻実習				
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画・演出Ⅰ		班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
2	企画・演出Ⅱ		撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
3	企画・演出Ⅲ		撮影スケジュール案を提出		
4	企画・演出Ⅳ		予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
5	企画・演出Ⅴ		撮影準備開始		
6	企画・演出Ⅵ		撮影完了		
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ		企画内容選定（舞台制作）		
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ		企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ		制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ		美術・衣装・小道具打ち合わせ		
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ		撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ		企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ		照明、美術、音響打ち合わせ		
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ		舞台制作準備		
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		専攻実習				
担当教員		広川一義		実務授業の有無	○	
対象学科		映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	182時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)		映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	企画・演出Ⅰ			班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
2	企画・演出Ⅱ			撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
3	企画・演出Ⅲ			撮影スケジュール案を提出		
4	企画・演出Ⅳ			予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
5	企画・演出Ⅴ			撮影準備開始		
6	企画・演出Ⅵ			撮影完了		
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ			企画内容選定（舞台制作）		
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ			企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ			制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ			美術・衣装・小道具打ち合わせ		
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ			撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ			企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ			照明、美術、音響打ち合わせ		
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ			舞台制作準備		
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ			舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

科目名		放送				
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	―	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. テレビ放送の仕組みをする 2. 放送機材の名称や、役割を知る 3. 次世代における映像技術・表現方法を学ぶ				
学習目標 (到達目標)		放送業界で活躍するうえで必要な基礎知識を全員が知り、理解している。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	放送の仕組みⅠ			放送の仕組み		
2	放送の仕組みⅡ			放送における技術セクションの役割		
3	放送の仕組みⅢ			番組制作の流れ		
4	放送の仕組みⅣ			番組制作の業務内容		
5	放送の仕組みⅤ			映像機材の名称およびその役割Ⅰ		
6	放送の仕組みⅥ			映像機材の名称およびその役割Ⅱ		
7	放送の仕組みⅦ			映像の信号とはⅠ		
8	放送の仕組みⅧ			映像の信号とはⅡ		
9	放送の仕組みⅨ			RGBとCMYKの違い・正しい色とは？		
10	放送の仕組みⅩ			モニタの役割		
11	放送の仕組みⅪ			カメラの種類と役割		
12	バーチャルシステムの仕組みⅠ			バーチャルシステムの基礎		
13	次世代における映像表現Ⅰ			次世代の放送と映像表現の変化Ⅰ		
14	次世代における映像表現Ⅱ			次世代の放送と映像表現の変化Ⅱ		
15	次世代における映像表現Ⅲ			次世代の放送と映像表現の変化Ⅲ		
16	まとめ・テスト			映像知識テスト		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
学修意欲70%、出席率30%				毎回休む事無く、集中し、理解する事を心がける		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、実践行動学ファシリテーター資格者				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		Protools				
担当教員		井上 一郎		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期 前期・後期	
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)		音の性質を理解し、扱えるようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	音響基礎実習Ⅰ			映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ		
2	音響基礎実習Ⅱ			音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ		
3	音響基礎実習Ⅲ			録音機材の準備方法、撤収方法		
4	音響基礎実習Ⅳ			プームの使用方法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ		
5	音響基礎実習Ⅴ			スタジオ録音実習		
6	音響基礎実習Ⅵ			アフレコ録音実習		
7	音響基礎実習Ⅶ			アフレコ録音実習		
8	音響基礎実習Ⅷ			効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
9	音響基礎実習Ⅸ			効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
10	音響基礎実習Ⅹ			整音実習（アフレコ素材の整音）		
11	音響基礎実習Ⅺ			整音実習（アフレコ素材の整音）		
12	音響基礎実習Ⅻ			整音実習（アフレコ素材の整音）		
13	音響仕上げ実習Ⅰ			ミックスダウンを行ってみる。		
14	音響仕上げ実習Ⅱ			ミックスダウンを行ってみる。		
15	音響効果研究Ⅰ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
16	音響効果研究Ⅱ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		レコーディングスタジオ 株式会社エヌトライブ代表取締役社長				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		Protocols				
担当教員		井上 一郎		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 様々な演出に応じた音の効果を学ぶ 2. 録音機材を使用し、収録を行う 3. 収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)		録音部として映像作りに関わり、各部署と連携して短編映像を完成させる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	音響基礎知識Ⅰ			ENG、マルチトラック録音、ワイヤレスマイクの取り扱い。電波法を理解する。		
2	音響基礎知識Ⅱ			マルチトラック録音実践		
3	音響基礎知識Ⅲ			ENG収録実践		
4	効果音実習Ⅰ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。		
5	効果音実習Ⅱ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。		
6	効果音実習Ⅲ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。		
7	録音実習Ⅰ			シナリオから短編映像制作を行う		
8	録音実習Ⅱ			シナリオを基に録音機材の機材のセッティング方法、機材の選定、操作方法の確認を行う。		
9	録音実践Ⅰ			短編映像制作		
10	録音実践Ⅱ			編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う		
11	録音実践Ⅲ			編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う		
12	録音実践Ⅳ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
13	録音実践Ⅴ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
14	録音実践Ⅵ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
15	録音実践Ⅶ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
16	PA実習			音響機材を使用し、マイクや操作卓のセッティング方法などを学ぶ。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた映像作品を完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		レコーディングスタジオ 株式会社エヌトラライブ代表取締役社長				

科目名		社会人常識マナー検定				
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				
学習目標 (到達目標)		1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4. ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集 3級				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織 1			社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20		
2	社会と組織 2			組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32		
3	仕事と組織			目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54		
4	一般常識 1			社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70		
5	一般常識 2			社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86		
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い			人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144		
7	ビジネス文書			ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156		
8	ビジネスマナー			組織の一員としてのマナー。来客対応。テキストP176～196		
9	定期試験			テストと解説。		
10	電話対応			電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214		
11	交際業務			慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238		
12	文書類の受け取りと発送			受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249		
13	計算			ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99		
14	日本			都道府県名・県庁所在地・各県の特徴など。		
15	検定対策①			過去問題の解説、確認。		
16	検定対策②			過去問題の解説、確認。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。		
実務経験教員の経歴		専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		映像研究					
担当教員		広川 一義		実務授業の有無		○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期	
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数	16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 幅広い映画・映像作品に触れ表現の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考えを持つ 3. 映像制作における共通言語を持つ					
学習目標 (到達目標)		映像における多種多様な表現方法を発見し、自分の作品制作に活かせるようになる。					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	映像研究Ⅰ			ストップモーション			
2	映像研究Ⅱ			サンプリング			
3	映像研究Ⅲ			時間操作			
4	映像研究Ⅳ			マルチスクリーン			
5	映像研究Ⅴ			プロジェクション			
6	映像研究Ⅵ			ワンカット			
7	映像研究Ⅶ			撮影機材			
8	映画研究Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(アクション)			
9	映画研究Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(恋愛映画)			
10	映画研究Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(特撮映画)			
11	映画研究Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(コメディ映画)			
12	映画研究Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(プロモーション映像)			
13	映画研究Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(コマーシャル研究)			
14	映画研究Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(特撮映画)			
15	映画研究Ⅷ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(戦争映画)			
16	映画研究Ⅸ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(邦画作品)			
評価方法・成績評価基準				履修上の注意			
レポート70%、出席率30%				16回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出する事。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる					

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		映像研究				
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 幅広い映画・映像作品に触れ表現の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考えを持つ 3. 映像制作における共通言語を持つ				
学習目標 (到達目標)		映像における多種多様な表現方法を発見し、自分の作品制作に活かせるようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	映像研究Ⅰ			ストップモーション		
2	映像研究Ⅱ			サンプリング		
3	映像研究Ⅲ			時間操作		
4	映像研究Ⅳ			マルチスクリーン		
5	映像研究Ⅴ			プロジェクション		
6	映像研究Ⅵ			ワンカット		
7	映像研究Ⅶ			撮影機材		
8	映画研究Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(アクション)		
9	映画研究Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(恋愛映画)		
10	映画研究Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(特撮映画)		
11	映画研究Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(コメディ映画)		
12	映画研究Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(プロモーション映像)		
13	映画研究Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(コマーシャル研究)		
14	映画研究Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(特撮映画)		
15	映画研究Ⅷ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(戦争映画)		
16	映画研究Ⅸ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。(邦画作品)		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
レポート70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				16回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出する事。 原則に1年次と同様に進めるが内容はより難しくなる。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

科目名	実践行動学				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	15時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 前期1回、後期2回実施 2. 人間力（自主性・プラス思考・実行力など）の育成 3. Part 1～Part 3 を毎回グループに分かれて実施				
学習目標 （到達目標）	将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Part 1 マジックドア 1		夢と目標 P 1～P 7		
2	Part 1 マジックドア 2		誤った思い込みと言いつ P 8～P 1 3		
3	Part 1 マジックドア 3		行動のよりどころと心構え P 1 4～P 2 2		
4	Part 1 マジックドア 4		まず第 1 歩を P 2 3～P 3 2		
5	Part 1 マジックドア 5		目標設定しよう P 3 3～P 38		
6	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P 3 9～P 4 2		
7	Part 2 マジックドア 1		プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P 1～P 4		
8	Part 2 マジックドア 2		考え方を換えれば行動が変わる P 5～P 1 1		
9	Part 2 マジックドア 3		あなたの問題は、あなたが解決できる P 1 2～P 1 9		
10	Part 2 マジックドア 4		あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P 2 0～P 2 7		
11	Part 2 マジックドア 5		目標が才能・可能性を開花させる P 2 8～P 3 2		
12	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P 3 4～P 3 6		
13	Part 3 マジックドア 1		入学から今日までの成長を実感しよう P 1～P 4		
14	Part 3 マジックドア 2		働く自分をイメージしてみよう P 5～P 1 0		
15	Part 3 マジックドア 3		自分が最大限に生きる働き方とは P 1 1～P 1 5		
16	Part 3 マジックドア 4		将来を描いてみよう P 1 6～P 2 0		
17	Part 3 マジックドア 5		夢実現への第一歩を踏み出そう P 2 1～P 24		
18	Step Up Sheet		夢実現整理・行動計画の振り返り P 2 5～P 2 8		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。			講師はあくまでも授業の進行役（ファシリテーター）でしかあり ません。ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進めて 下さい。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に 7 年、専門学校にて26年の指導、実践行動学ファシリテーター資格者				

科目名	サブカル概論				
担当教員	朝倉隆司・矢頭勲・広川一義・安川嘉文		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 4人の講師が過替わりで実施 2. 日本が誇るサブカル文化に対して造詣を深める 3. 様々なことに対して好奇心・興味を持つことを目的とする				
学習目標 （到達目標）	自分の知らないことでも興味関心を持ち、自らのサブカル知識をもっと深く探求する意欲をもつこと				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	各自、プリント配布など				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	アニソンについて（朝倉）		昭和から現在までのアニソンの歴史、アーティスト、誕生秘話などを説明		
2	70年代オカルトブームについて（朝倉）		大予言・UFO・オカルト・超能力・つちのこ等、昭和にブームを巻き起こしたオカルト、および時代背景を説明		
3	スーパーヒーローについて（朝倉）		ウルトラマンから仮面ライダーまで、昭和から令和に引き継がれるスーパーヒーローについて		
4	昭和トレンド（朝倉）		昭和にブームになったモノ・場所・生活など		
5	千と千尋のストーリー考察（矢頭）		千尋の名前の意味やその扱い方など物語のテーマやメッセージを考える		
6	昭和人情ドラマとアニメの演出（矢頭）		昭和のドラマやアニメの世界で、技術だけに頼らず演出が作り出す魅力		
7	アクション映画とアクション俳優（矢頭）		ブルースリーやジャッキー、ジェームスボンダやアベンジャーズなど ヒーローへの憧れ		
8	時代劇を作る苦労話あるある（矢頭）		映り込みや照明。セットプランと時代考証。必殺や水戸黄門の撮影苦労話。		
9	特撮と歴史の関係（広川）		仮面ライダーで見る悪役の変化と、ベルトの変化		
10	海外から見たレトロゲームの価値（広川）		海外から見た日本のレトロゲームとは？		
11	ゾンビの歴史（広川）		ゾンビ誕生から、現在のゾンビの変化について		
12	オカルトの歴史（広川）		オカルト雑誌ムーをテーマに、オカルトの歴史を学ぶ		
13	サブカルチャーと日本の土壌について（安川）		サブカルチャーのイントロダクション。サブカル文化の代表的なエリア（秋葉原・中野・下北沢・新宿）の紹介		
14	サブカルと歌謡曲（安川）		友川かずき・ちあきなおみ・佐井好子の楽曲考察		
15	サブカルとミュージカル1（安川）		ロッキーマンショー考察		
16	サブカルとミュージカル2（安川）		ブルーマングループ考察		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート提出50%、授業態度30%、積極的発言20%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			楽しみながらもサブカルの造詣を深めて下さい。また、授業では、極力、発言する機会をもうけます。積極的に発言下さい。		
実務経験教員の経歴		各講師、映像・音楽・演劇業界にて実績あり。当校専任講師			